



(写真) Shutterstock "2021年のベネズエラ中央銀行の外貨準備の内訳、動きについて考察"

21年の外貨準備推移

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎



ベネズエラ中央銀行は毎年6月、12月に外貨準備の内訳を公表している。

22年2月に中央銀行が2021年末時点の外貨準備の詳細を公表した。

2021年6月末時点で62.3億ドルだった外貨準備高は、同年12月に109.1億ドルに増えた。

増加の要因は何だったのか、外貨準備の内訳にどのような変化があったのか、中央銀行の資料を確認しながら外貨準備の動きを考察したい。

SDR 追加割り当てにより外貨準備増加

ベネズエラ中央銀行の公表値によると、2021年末時点での外貨準備は109.1億ドル(暫定値)だった。

2020年末の外貨準備は63.6億ドルだったので前年から45.5億ドル(71.5%)増えたことになる(20年末の外貨準備についてのレポートは「[ウィークリーレポート No.188](#)」を参照)。

次ページに2018年1月~21年12月までの外貨準備詳細の推移をグラフ化している。

グラフの通り、この1年間で大きく増加した項目は「特別引出権(SDR)」である。

「SDR」とは、IMF加盟国が緊急時に使用できる資金枠。2020年末時点ではほぼゼロに近かったSDRが21年中旬に急増していることが確認できる。

ベネズエラは元々約35億ドルのSDR使用枠を有していたが、2014年～16年にかけて原油価格が低迷した際にほぼ全て使用してしまい18年1月の時点ではSDRはほとんど残されていなかった。

この数字は21年8月までほとんど変わらなかったが、21年9月に急増した。

急増の理由は「IMFによるコロナ対応支援金の割り当て」だった。

21年8月、IMFは各国政府がCovid-19に対応するための資金援助を実施。総額6,500億ドル相当のSDR追加配分を決定した。

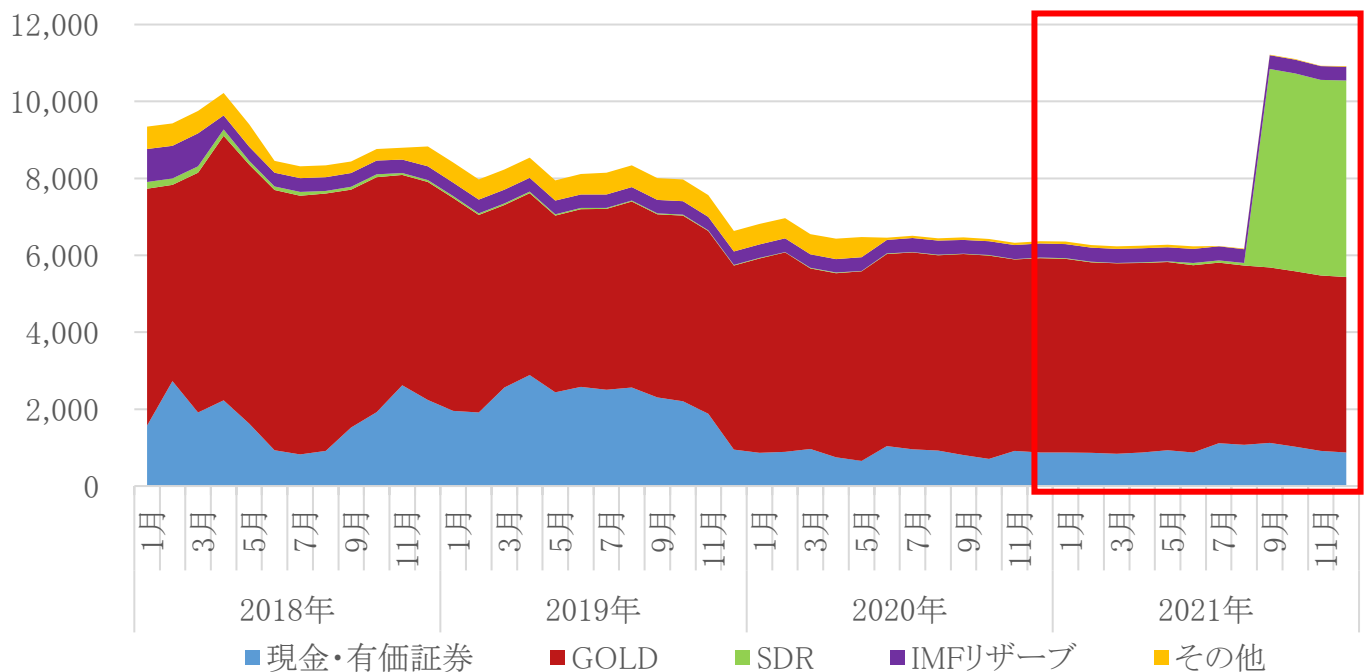
追加額は既存のIMFクォータ(出資割当額)を基準に産出される仕組みになっており、ベネズエラへのSDR追加配布枠は約50億ドルだった。

この追加枠が21年9月の外貨準備に反映されたため9月に急増している。

次ページには2021年の月別の外貨準備詳細を表にしている。

グラフ：外貨準備高の推移(2018年1月～21年12月)

(単位：100万ドル)



(出所)中央銀行(GOLD、外貨準備総額、その他)、IMF(SDR、IMFリザーブ)

表: ベネズエラの外貨準備推移(2021年1月~21年12月)

(単位:百万ドル、%)

	2021年						
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
現金・有価証券	875	861	840	872	934	872	1,113
GOLD	5,037	4,956	4,950	4,928	4,891	4,866	4,690
SDR	12	13	12	13	12	62	62
IMFリザーブ	367	367	361	366	368	363	364
その他	67	67	67	67	67	67	13
合計	6,359	6,264	6,231	6,246	6,273	6,181	6,241

	2021年					割合	前年 同期比
	8月	9月	10月	11月	12月		
現金・有価証券	1,072	1,038	965	852	876	8.0	0.6
GOLD	4,665	4,644	4,617	4,619	4,560	41.8	△ 9.8
SDR	62	5,159	5,143	5,087	5,111	46.8	37,954
IMFリザーブ	363	359	361	357	357	3.3	△ 2.8
その他	13	13	13	13	10	0.1	△ 82.5
合計	6,175	11,213	11,099	10,928	10,914	100.0	71.5

(出所) ベネズエラ中央銀行、IMFから弊社作成 ※緑色で塗られている箇所は暫定値

21年 約4億ドルのGOLDを売却

外貨準備の内訳を細かく見ていくとSDR以外でもいくつかの変化を確認できる。

特筆すべき点は「GOLD」の動きだろう。

21年1月時点で50.4億ドルが計上されていたGOLDは21年12月には45.6億ドルと約5億ドル減少している。

この5億ドルの減少は、GOLD評価額の下落に加えて、GOLD自体が売却されたことも理由だ。

20年末時点でのGOLD評価額は、中央銀行の評価方法で1トロイオンス1,829,72ドルだった。それが21年末には同1,799.48ドルに下がった。

また、中央銀行の公表資料から割り出される20年末時点でのGOLD保有量は85.7トンだった。

しかし、21年6月末には82.7トン。

12月末には78.8トンになっている。

中央銀行がGOLDを売却した正確なタイミングは分からないが、21年1月~6月の間に3トン、7月~12月の間に4トン、年間で約7トンのGOLDを売却したことは確かだろう。

なお、7トンのGOLDを21年12月末時点の中銀のGOLD評価額(1トロイオンス1,799.48ドル)で換算すると、約4億ドルになる。つまり、中央銀行は年間で約4億ドルのGOLDを売却したと思われる。

これらのGOLD売却資金は為替レートを安定させるため、両替市場に投入されたと理解されている。

SDR の使用枠 現時点では飾り

以下では、前述のデータについて考察してみたい。

まず2021年に外貨準備を大きく上昇させた SDR だが、IMF の許可がなければ動かすことは出来ない。

現在 IMF は「ベネズエラ政府が誰か」という問題で加盟国の意見が分かれている。実際のところ IMF は出資額で投票権の大きさが変わるので、先進国の意見が反映されやすい仕組みになっている。

欧州はマドゥロ政権がベネズエラを実行支配していることを認識し、マドゥロ政権をベネズエラ政府として対応しているが、正式には認めていない。

欧米が「マドゥロ政権がベネズエラ政府」と明確に認識しない限り IMF の SDR は動かせない。

つまり、外貨準備に計上されている SDR の45.6億ドルは現在のところ飾り程度の役割しかない。

ただし、この SDR は元々コロナ対策を前提とした融資枠だった。コロナ対策の資金を止めることは本来、人道問題であり、倫理的にこの資金を止めていることには大きな問題がある。

ガイド暫定政権とマドゥロ政権が一定の合意を交わすことができれば動かすことが出来るようになる資金だろう。

売却できる GOLD はまだ十分

次に GOLD について考察したい。

前述の通り、21年末時点で中央銀行が保有している GOLD は78.8トン。

これまで何度か紹介しているが、中央銀行が英国に保管している GOLD は英国政府の方針により凍結されており動かすことが出来ない。

英国で凍結されている GOLD は約31トンと報じられている。

つまり、マドゥロ政権は英国で凍結されている GOLD を除いてもまだ47.8トンほどの GOLD を保有していることになる。

仮に21年と同じように年間で7トンずつ売却したとしても7年近くもつ。

実際のところ22年は原油が高止まりしており、国庫は21年より余裕があるだろう。少なくとも今のペースでいけば、2年・3年で外貨準備が底をつくということは考えられない。

ただし、延滞している対外債務を支払うことを踏まえれば109.1億ドルでは足りない。あくまで「現在のように対外債務の履行を停止し続ければ、外貨準備には余裕がある」ということだろう。

以上